

講義で大正琴を聴く

問題認識特別講義という科目で「大正琴を聴く」という催しが学部棟 201 教室で行われ、宣伝したり演者を出迎えるなどした。講義は「芸どころ名古屋」というテーマで、

昨年は「名古屋生まれの東京育ち」どどいつだった。今年は中区大須の森田吾



郎が 1912 (大正元) 年に発明した大正琴を生で聴いてもらう企画で、講義を中日新聞で案内して市民にも広く参加をよびかけた。

演じたのは琴伝流大正琴大師範の倉知弦洲さんと長男崇さんである。解説を交えながら定番の「人生劇場」など 10 曲を奏で、学生からの質問にも答えてもらった。今回はじめて生で大正琴

を聴いたが、あの心に響き渡る音色に感動した。とりわけ大好きな「千



の風」には、昨年来の出来事を思い出しながら聞き入った。

印象的だったのは、講義が終わってから何人かの学生らが駆け寄って、大正琴に触れたり、講師の手を借りて演奏し始めたことだ。あとから奏者と一緒に感想文を読んだが、名古屋生まれの大正琴とその音色に興味をもった学生が多かった。地元の芸能や文化に直接ふれあうことの大切さをあらためて感じた。

(2008 年 6 月 9 日 記)